

県立学校における「地域と共にある学校づくり」実践発表会 実施報告

- 1 日時 平成28年2月2日(火) 14:00~16:00
- 2 会場 県立教育研究所(磯城郡田原本町秦庄22-1)
- 3 参加者 40人(高等学校33人、特別支援学校7人)
- 4 内容 14:00~14:05 開会挨拶
14:05~14:55 実施報告① 県立磯城野高等学校
実施報告② 県立桜井高等学校
14:55~16:00 講評・講演



「県立学校における『地域と共にある学校づくり』
—調査から見える成果・教訓・課題—
早稲田大学 文学学術院 教授 増山 均 他
16:00 閉会

5 実践報告概要

■実践報告① 専門高校の特色を生かした「地域と共にある学校づくり」

県立磯城野高等学校 教諭 真井順也

生徒 齊藤里奈、威徳裕也、楠田紅葉

- ・ 農業クラブ・家庭クラブを中心に「直売所 しきの 彩」が開かれている。また、農業科が、子ども対象の「ふれあい動物教室」、「野菜の教室」を開催している。学校全体では、広く県民の方を対象に、「ホリデーイン磯城野」として学校を公開している。
- ・ 取組により、生徒のコミュニケーション能力が向上し、学習(実習)成果を実感できた。地域貢献の結果、地域の学校への信頼が増している。
- ・ 組織の簡略化、活動に伴う時間や場所の確保、教材・教具の充実、施設・教材の維持経費の負担軽減等が課題である。

■実践報告② 地域と共にある学校づくり~桜井高校の取組み~

県立桜井高等学校 教諭 東 重一、早川純平

生徒 瀧上溪一郎、薄木菜桜

- ・ 地域の方の協力も得て、高校近くの粟原川周辺で清掃ボランティアを実施。32年間続く取組であり、全校生徒の7割が参加する。
- ・ フューチャーセンター(生徒や教職員等の情報交換の場)を昇降口に設けている。さらに、フューチャーセンターの活動の一環として作製されたウッドデッキも、生徒同士の対話の場に利用されている。また、東京の跡見学園高校が同じくフューチャーセンターを設置していることから、意見交換を始めている。
- ・ 今後の展望として、清掃ボランティアの継続、生徒目線によるフューチャーセンターの活性化、桜井市の町屋での地域の方との交流拡大等があげられる。

6 講評・講演概要

「県立学校における『地域と共にある学校づくり』—調査から見える成果・教訓・課題—

早稲田大学 文学学術院 教授 増山 均

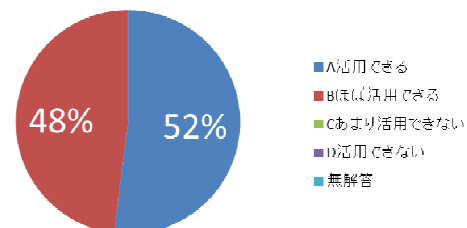
早稲田大学 非常勤講師 阿比留久美

小田原短期大学 保育学科 講師 齋藤忠夫



- ・ 発表内容、プレゼンともに素晴らしい。両校の取組発表に「地域と共にある学校づくり」の成果が集約されている。両校以外にも奈良県の県立学校には優れた取組が多い。今後、各学校の取組が交流されることを期待する。
- ・ 事業により、「コミュニケーション力」の向上と「自信」の獲得という「生徒の成長」がもたらされている。しかし、それ以上に、生徒が学ぶことの意義を感じ、新たな学びの課題発見につながっていることに価値がある。
- ・ 「負担」と「負担感」は異なる。生徒の変化を感じると、教職員の「やりがい」が高くなり「負担感」は低くなる。
- ・ 「負担感」を克服するためには、交流や研修会等を通じて取組の成果を共有することが欠かせない。

研修内容は、今後の活動に活用
できるものでしたか。



7 参加者の感想より

- ・ 日常的に多様な活動を実践していることが素晴らしい。今日の発表も含め、生徒達の姿が生き生きしている。
- ・ 講演では、成果が客観的に評価されており、取組の意義を感じることができた。
- ・ 「地域と共にある学校づくり」が教育の本質に結びついていることを知り、この事業に取り組む喜びを感じた。